

# 那覇・福州友好都市交流シンボルづくり事業

那覇市 建設管理部 花とみどり課

## ■シンボル像(龍柱)の設置目的

- 那覇市と中国福州市は、昭和56年(1981年)の友好都市締結から平成23年(2011年)で30周年を迎え、今後も両市の友好・交流を記念し、シンボル像を建設します。
- 近年、若狭の海岸部は、大型旅客船バースが暫定供用し、空港から若狭までの区間で那覇西道路が開通するなど、那覇市の新たな玄関口となっております。そのような中、シンボル像は、新たな玄関口(若狭緑地)に、ゲート的な要素を含んだデザイン性のモニュメントとし、地域の魅力づくり、また、観光都市としての魅力の向上を図ります。

古くから、建物や敷地の入口などには守護の意味を兼ねて、シーサーの像や龍柱などが用いられてきました。今回、新たな玄関口に設置するシンボルモニュメントにふさわしいものとして、那覇西地域の歴史性を活かし、中国にゆかりがあり、広く一般的に馴染みのある龍柱をテーマとしました。

※イメージ図



## ■シンボル像(龍柱)の形状・規模・材料

### ●形状:

玄関口として印象を与えるよう、ゲート性を有した形状(柱状)としています。

### ●規模:

遠方からの視認性や、設置場所周辺の構造物とのバランスを考慮し、  
高さ: 約15m、幅: 約3m程度としています。  
基礎工: 約25m杭×8本の2基  
※注: 4・5階建ての建物、道路照明灯など

### ●材料:

景観に配慮し、自然素材である石材を使用。彫刻に適した中国産の花崗岩を使用します。



※那覇市都市計画マスタープランにおいて、若狭の海岸部から国際通りを経て首里に至る軸を都市のシンボル軸と位置付けており、歴史・文化の展開軸となっています。